

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項に基づく

中津市教育委員会施策の
点検・評価に関する報告書
(令和元年度対象)

令和 2 年 8 月 2 1 日

中津市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)	自己評価について	2
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	5
3.	施策毎の目標、達成状況等	6
(1)	表の見方	6
(2)	各施策の内容	7
III	学識経験を有する者の知見	35
IV	おわりに	41

I はじめに

1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

(1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

(2) 実施方法

①対象期間

令和元年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、「なかつ安心・元気・未来プラン 2017（第五次中津市総合計画）」（平成 29 年 3 月策定）及び「第 2 期中津市教育振興基本計画」（平成 31 年 3 月策定）に基づき各種施策を推進しており、令和元年度は重点的な 25 項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用にあたっては、教育に関して公正な意見を述べることを期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（教育産業建設委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の3つの着眼点で、5段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成（80%以上）
4	着実に進捗（相当程度達成・79～60%）
3	やや不十分（59～40%）
2	不十分（39～20%）
1	抜本的見直しが必要（19～0%）

(2) 総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

II 点検・評価

以下に、令和元年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

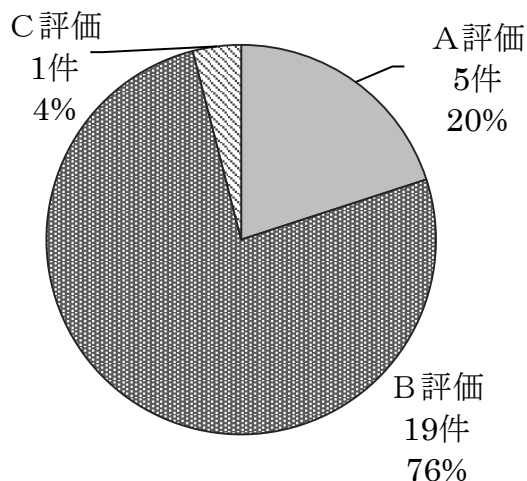
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (学校教育)	学校教育の充実 (義務教育の充実)	1 確かな学力の育成	4	B	学校教育課
		2 組織的ないじめ・不登校対策の推進	3	B	学校教育課
	学校教育の充実 (小・中・高・短期 大学との連携促進)	3 グローバル化に対応できる力の育成	4	B	学校教育課
	学校教育の充実 (幼児教育の充実)	4 幼稚園教育内容の充実	4	B	学校教育課
	安心安全な学校施設の 計画的整備促進	5 安心安全な学校施設の計画的整備	4	B	教育総務課
	学校給食の充実	6 地産地消の推進	4	B	体育・給食課
学びたい教育の まちづくり (生涯学習・産 業教育の推進)	生涯学習の推進	7 生涯学習推進基盤の整備及び 公民館、コミュニティーセン ターの利用促進	3	B	社会教育課
		8 学習機会の拡充と学習効果の 活用	4	B	社会教育課
		9 新中津市学校の活用	5	A	社会教育課
	教育の協働	10 中津市地域協育振興プラン推 進事業	3	C	社会教育課
	生涯学習センター 「学びん館」	11 生涯学習センター事業の充実	5	A	社会教育課
	産業教育の推進	12 キャリア教育の充実	4	B	学校教育課
		13 多様な体験の場の活用	4	B	社会教育課
	図書館の充実	14 図書館機能の充実	4	A	小幡記念図 書館
15 読書活動の推進		4	A	小幡記念図 書館	

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (文化・スポーツの推進)	スポーツの振興	16 生涯スポーツの推進	4	B	体育・給食課
		17 競技力向上及びジュニアの育成	4	B	体育・給食課
		18 市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	4	B	体育・給食課
		19 東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致活動	4	B	体育・給食課
	文化・芸術活動の推進	20 文化施設の充実	4	B	社会教育課
		21 文化芸術活動の推進	4	B	社会教育課
	歴史と文化の伝承	22 資料館活動の充実	5	A	社会教育課
		23 文化財保護体制の確立	4	B	社会教育課
		24 文化財の保存・活用	4	B	社会教育課
学びたい教育の まちづくり (教育委員会活動の充実)	教育委員会活動の充実	25 教育委員会の機能強化	4	B	教育総務課

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価5件、B評価19件、C評価1件となりました。

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本の見直しが必要

その結果、25項目ある施策の概ねが、優れた取り組みにより着実に成果が見える状況であります。

特にA評価の施策である「資料館活動の充実」では、令和元年11月1日に中津市歴史博物館を開館し、開館行事は式典だけでなく、神楽やアートイベントを行い市民参加の形で盛況に終わることができました。博物館の開館という大きな山を乗り越えただけでなく、市民が歴史文化に親しむ機会の創出や学校教育での活用にも力をいれることができました。また、令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の利用が制限され、利用者数などにも影響がありました。そうした中、生涯学習センターは、新型コロナウイルスの影響で3月を休館としましたが、そのことを除くと、昨年度より利用者が増加しており、情報発信や講座などの多くの取り組みにより、十分な成果を上げることができました。

しかしながら、「中津市地域協育振興プラン推進事業」で、モデル地域を指定する取り組みでは、指定年度は地域住民の事業に対する意識は高まるが、その後地域に継続的に定着させることが難しく、改善が必要としてC評価となりました。その他の施策においては、優れた取り組みが見受けられ、更なる取り組みを要するものや改善を必要とするものなどの評価はありませんでしたが、今後においても、引き続きより高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続して取り組んでいきたいと考えています。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	学びたい教育のまちづくり (学校教育)	A	学校教育の充実（義務教育の充実）
		B	学校教育の充実（小・中・高・短期大学との連携促進）
		C	学校教育の充実（幼児教育の充実）
		D	安心安全な学校施設の計画的整備促進
		E	学校給食の充実
2	学びたい教育のまちづくり (生涯学習・産業教育の推進)	F	生涯学習の推進
		G	教育の協働
		H	生涯学習センター「学びん館」
		I	産業教育の推進
		J	図書館の充実
3	学びたい教育のまちづくり (文化・スポーツの推進)	K	スポーツの振興
		L	文化・芸術活動の推進
		M	歴史と文化の伝承
4	学びたい教育のまちづくり (教育委員会活動の充実)	N	教育委員会活動の充実

(2) 各施策の内容

No	分類			目 標
	大	中	小	
1	1	A	確かな学力の育成	<p>令和元年度全国学力・学習状況調査において、正答率の合計が全国・県平均を上回っている学校が、小学校 18 校、中学校 6 校以上となるよう取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「新大分スタンダード」に基づく付けるべき力を明確にした授業の徹底 ○新学習指導要領の理解と確実な実施 ○小・中連携した基礎・基本の確実な習得と、資質・能力を育む組織的な取組 ○組織的な各種学力調査等の分析と授業への活用

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○令和元年度全国学力・学習状況調査において、正答率の合計が全国・県を上回っている学校は、小学校 16 校、中学校 5 校であり、わずかに目標に届いていない。 (小学校 H30 : 16 校→R1 : 16 校、中学校 H30 : 5 校→R1 : 5 校)</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○達成率は小学校 89%、中学校 83%であり、目標達成にはいたっていないが、市全体の合計得点では、小学校は全国・県を上回っている。新大分スタンダードを基本とした、中津市独自の授業改善「みんな活躍」授業の取組が広がりを見せており、学力の伸びを支えていると考えられる。また、各校での授業実践の様子を、教育委員会が「学ぶ通信」としてまとめ、定期的に発行しており、各校が日々の授業実践や校内研修等に活用している。今後も好事例を市内小中学校へ広げていく取組を推進していく。</p> <p>○中学校では、学力向上対策「3つの提言」推進拠点校を中心とした授業改善を推進する。また、授業・補充学習・家庭学習の学びのサイクルを効率的に行えるよう、市内共有フォルダ Education で、学習プリントやワークシート等の交流を図り、学校における組織的な取組を推進する。</p>	4	B	4	B	学校教育課

No	分類			目標
	大	中	小	
2	1	A	組織的ないじめ・不登校対策の推進	<p>不登校（不登校を理由に年間 30 日以上欠席）の児童生徒数の減少を目指す。 （目標値 1,000 人当たりの不登校数 小学校 3.3 人、中学校 21.7 人）</p> <p>また、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を徹底する。 （目標値 いじめの解消率 小学校 93% 中学校 90%）</p> <p>○生徒指導の 3 機能を活かした教育活動の推進 ○いじめ・不登校に関する研修の充実、OJT による学級経営力・児童生徒指導力の育成 ○校内組織（学校いじめ・不登校防止対策委員会）の強化、教育相談コーディネーターの明確化と効果的な活用 ○SC、SSW、地域児童生徒支援コーディネーターとの相談体制強化、関係機関・適応指導教室等との連携、「児童生徒支援シート」の活用</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○令和元年度（令和2年3月末現在）、不登校（不登校を理由に30日以上欠席）の状況にある1,000人当たりの数は、小学校7.4人、中学校36.1人であった。平成30年度よりも増加し目標達成には到っていない。増加の要因としては、これまでの調査では、欠席理由が「不登校」ではなく「病気」、「その他」で計上されていた漠然とした不安等を理由に登校していない児童生徒について、「不登校」として計上するようにしたことによる。近年、家庭にかかる状況が原因と考えられる児童生徒が増えており、学校だけの支援で好転することが難しくなっている。地域コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも連携して児童生徒の背景を共有し、必要に応じて福祉や医療機関等につなぐなど、適切な対応に努めている。</p> <p>○いじめの認知件数は、小学校は1,226件（解消率78.6%）、中学校は140件（解消率82.9%）であった。</p> <p>いじめの認知件数の増加は、積極的に認知した結果、認知度向上と捉える。また、平成29年度よりいじめ防止推進法の一部改正により「解消率」の定義が改訂「いじめの行為が少なくとも3か月止んでいる状態を解消したもの」ととらえた数値となったため目標数値に比べ減少となった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○いじめの解消率については、昨年度と比較し、小学校が7.4%減少、中学校は4.9%増加している。小学校は解消に対する認識を厳しくとらえ丁寧に対応していること、中学校は組織的な取組が進み連携した対応が行われてきたことによるものである。今後は、学年当初の校内組織体制の機能強化を行うとともに、授業を通じた人間関係づくりを進めていく。</p> <p>○不登校の児童生徒は徐々に増加し、平成30年時点の大分県・全国並になった。不登校の要因は複雑化、多様化してきており、地域児童支援コーディネーター・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・適応指導教室支援員・指導主事等が未然防止・早期支援にむけて情報共有・共通理解の場を設定し対応策を講じている。学校に向けては、魅力ある学校づくり、教育活動を通じた人間関係づくり、コミュニケーション能力の育成に力を入れていく。また、学力保障及び社会的自立の観点から適応指導教室はもとより、フリースクールや民間の機関等とも連携して支援していく。</p> <p>○継続的に支援が必要な児童生徒については、個別の支援シートを作成し、関係機関と連携を図りながら、効果的な支援を行っていく。</p>	4	B	3	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
3	1	B	グローバル化に対応できる力の育成	<p>求められる英語力（英検 3 級取得者+3 級以上相当の力）を有する中学 3 年生の割合が 50%以上とする。</p> <p>ジュニア・グローバル・リーダー研修への応募者、A P U 交流、英語弁論、わくわく英語ひろばの参加者の拡大を目指す。</p> <p>○小中の学びをつなぎ、伝え合う意欲と力の向上を図る授業改善</p> <p>○C E F R - A 1 レベル相当以上の取得</p> <p>○A L T を活用した体験学習（英会話教室、J G L、A P U 交流等）の充実</p> <p>○中津の歴史学習や総合的な学習での地域探究学習の推進</p>
4	1	C	幼稚園教育内容の充実	<p>「中津市幼児教育振興プログラム」についての研修・実践交流を推進する。</p> <p>幼保小連携協議会の一層の充実、円滑な接続に向けた取り組みの充実を図る。</p> <p>○保幼小の連携と接続期カリキュラムの充実</p> <p>○官民一体となった「中津市乳幼児教育振興プログラムあそびのすすめ」の実践・研修の充実</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○英検 3 級以上を取得している中学 3 年生の割合は 20.9%、英検 3 級以上相当の英語力を有すると思われる中学 3 年生の割合は 25.0%であった。求められる英語力「3 級取得+3 級以上相当の力」を有すると思われる生徒は 45.8%となり、目標値には届かなかったが、年々増加の傾向にある。</p> <p>○ジュニア・グローバル・リーダー研修、APU 交流、英語弁論、わくわく英語ひろばの参加者（前年度との比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア・グローバル・リーダー研修（10 名→10 名） ・APU 交流（21 名→20 名） ・英語弁論（7 名→4 名） ・わくわく英語ひろば（23 名→10 名） ・英検塾参加者（234 名→215 名） <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○求められる英語力（英検 3 級取得者+3 級以上相当の力）を有する中学 3 年生の割合 50%を達成するために、中学生英会話塾及び英検塾を継続するとともに、言語活動を通じた 4 技能の向上に向けて中学校の英語の授業改善の推進に取り組んでいく。</p> <p>○ジュニア・グローバル・リーダー研修への参加者決定の際に面接を導入したため、現地での活動の際に意欲的に取り組む生徒が増加した。今後も面接を継続する。</p> <p>○より多くの中学生が英語に触れる機会を増やすため、来年度は、APUで行うイングリッシュキャンプの充実を図る。</p> <p>○中学校外国語教育研究推進校で G T E C のテストを実施し、授業改善の資料として活用する。</p> <p>○中学校外国語検討委員会を立ち上げ、ALT を活用した中学校でのスピーキングテストを推進する。</p> <p>○小・中・高・短大の連携についても、来年度も互いに授業交流を呼びかけて生徒の円滑な接続が図れるように推進していく。</p>	4	B	4	B	学校教育課
<p>○「中津市乳幼児教育振興プログラム（あそびのすすめ）」について、市内全保育教育施設の保育士等と小学校教員で合同研修を行った。その中で、遊びを通して育む幼児の資質・能力の重要性の共有や接続期の保育や授業の実践交流ができた。</p> <p>○各小学校区で授業見学や交流会等を実施し、円滑な接続に向けて取組を進めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○保幼小連携協議会等において、交流会の実践発表や保育の事例報告などを行い、就学前後の保育・教育の更なる相互理解を図る。</p>	4	B	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
5	1	D	安心安全な学校施設の計画的整備	<p>老朽化対策及び教育環境の改善に努めるため、学校施設の長寿命化改修、大規模改修、トイレ洋式化改修等行う。</p> <p>また、施設毎の中長期的な維持管理・整備計画となる長寿命化計画策定に取り組む。</p> <p>○学校施設の長寿命化改修、大規模改修、トイレ洋式化改修 （国庫補助金の確保及び対策、空調設備設置率 100%設置、トイレ洋式化改修率 75%目標）</p> <p>○長寿命化計画策定の事前準備作業（抽出データ作業、整理等）</p>
6	1	E	地産地消の推進	<p>J Aや漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図り、新たな生産者組織や後継者の育成等に関係機関と協議する。</p> <p>○学校給食地産地消推進会議を通じて、農政水産担当部署、J A、漁協、生産者等と地場産食材の利用拡大に取り組み、生産者の育成等に関する協議の場とする。</p> <p>○地場産食材を活用した新献立を開発する。</p> <p>○地場生産者が不在となった本耶馬溪調理場管内の新たな野菜生産者又は地場産納入業者を探す。</p> <p>○地産地消献立を通じて、子どもたちに学習意欲や郷土への関心を感じさせる工夫に努める。</p>
7	2	F	生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進	<p>公民館、コミュニティーセンターの利用促進や社会教育施設の整備、中津市生涯学習大学の充実と受講者の確保に取り組む。</p> <p>○社会教育関係者（社会教育委員、公民館長、社会教育指導員、関係職員等）の研修、実践による資質の向上による魅力ある学習内容の提供。</p> <p>○自主運営を行っている中津市生涯学習大学への積極的な人的支援及び専門的支援。</p> <p>○和田コミュニティーセンター建設事業（建築工事、外構工事）</p> <p>○老朽化した公民館の設備等の改修事業を実施</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○学校施設の長寿命化改修、大規模改修、トイレ洋式化改修等については、常に国庫の動向に注視し、一部前倒しするなどして国庫補助金の確保に努めた。そのことにより、概ね計画通りの施設改修に努めることが出来た。(トイレ洋式化改修率 72%)</p> <p>○長寿命化計画策定の事前準備作業(抽出データ作業、整理等)については、必要なデータ収集に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○学校施設整備については、国庫補助金を最大限活用し予算を確保することに努め、学校施設の整備・改善を引き続き行う。</p> <p>○長寿命化計画の令和2年度中の策定に向け事務執行に努める。</p>	4	B	4	B	教育総務課
<p>○栄養教諭が中心となり「シシ肉と厚揚げ味噌炒め」、「里芋の豆乳ごま味噌汁」、「揚げサバのゆずあんかけ」等の地元産食材を使った新献立の開発を行った。また、ジビエについても各調理場で毎学期取り組むことができた。</p> <p>○地産地消会議では、各関係者から子供たちにたくさんの中津産食材を食べてもらいたいと様々な議論が交わされ、地元産野菜の利用率については、全調理場においてJ Aから納入が可能となったこともあり、令和元年度上半期までの実績では10%から17%に上がった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○よりたくさんの中津産食材を効率よく使用できるよう、各関係者と各調理場で個別に協議を行っていくことが必要である。各関係者と連携し、子供たちにより多く安全で安心な地元産食材を提供できるように工夫していきたい。</p>	4	B	4	B	体育・給食課
<p>○公民館、コミュニティーセンター(山国公民館除く)の利用者数は、183,617人(前年度211,271人)で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策で、3月の利用者はいないが、それを加味しても前年度より減少している。</p> <p>○生涯学習センター「まなびん館」で開催している生涯学習大学は、受講者実人数は623人(前年度577人)で増加している。生涯学習センター全体では、26,008人(前年度25,964人)で前年度より微増した。</p> <p>○施設整備については、和田コミュニティーセンター建設にかかる造成工事の他、各公民館の老朽化箇所等に対する改修、修理等を適宜行なった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○公民館の利用者が僅かではあるが減少傾向にある。各地域で高齢化が進み、特に男性の講座の受講生、男性中心のサークルの持続が困難になっている。</p> <p>○主催講座を企画、運営する公民館長や社会教育指導員が受講者を確保するための魅力ある学習内容の開発や新規の指導者、講師の開拓に対して、積極的な支援ができるよう、引き続き情報の収集、提供に努める。</p> <p>○サークル活動については、館長と情報共有しながら、新規サークルの立ち上げの支援や既存のサークルの育成を図っていく。</p>	4	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
8	2	F	学習機会の拡充と学習効果の活用	<p>新規学習者の獲得、サークルの育成、「ふるさと学習」の推進について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民ニーズにあった魅力的な学習や実際の生活や地域づくりへとつながる学習、それらの学習のための講師等、新規人材の開拓とサークル等自発的学習への支援。 ○子どもたちが主体的に参加でき、体験活動を重視した「ふるさと学習」の実施。 (福沢諭吉記念事業、子ども中津検定・福澤諭吉検定、ワンパク！たんけん中津、青少年地域活動事業、中津ジュニア歴史ガイド育成、公民館独自講座 等)
9	2	F	新中津市学校の活用	<p>新中津市学校の改修工事及びオープンに向けた施設の環境整備を行う。また、オープニングイベント及び令和元年度事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の耐震化・改修工事 ○開館準備（備品等の環境整備、職員配置等） ○開館行事の実施 ○慶応義塾大学との共同研究及び中津市独自事業の実施 ○新中津市学校運営委員会の設置 ○市民の利用促進への取組み（各種媒体を活用した広報活動、学校、各種団体への周知等）

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○公民館、コミュニティーセンターでの主催講座の新規学習者は伸び悩んだが、生涯学習センターで開催している生涯学習大学の受講者数は623人(前年度577人)で昨年より増加しており、新規学習者も多くみられた。</p> <p>○福澤諭吉記念中津市近郊小中学校書写展は出品数が1,970点(前年度2,099点)で昨年度より減少している。</p> <p>○第11回「諭吉かるた」大会には、小学生低学年13チーム、高学年20チーム計33チーム総勢119人の児童が参加した。</p> <p>○子ども中津検定には、48人(4年生8人、5年生17人、6年生23人)の参加があり、1級5人、2級13人、3級16人であった。(満点0人)</p> <p>○「ワンパク!たんけん中津」には16人の参加があった。</p> <p>○青少年地域活動事業(三保小学校人形劇クラブ)には14人(4年生7人、6年生7人)の参加があった。</p> <p>○南部公民館の講座の「ジュニア歴史ガイド」は、小学生4人(5年生1人、6年生3人)が年間を通して練習や学習に励んだ。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○公民館、コミュニティーセンターは、よりよい地域づくりの拠点としての機能も期待されているため、学習者に対し、学んだ成果を生かせる場づくりを引き続き行い、生きがいつくりや地域づくりにつながるように公民館活動を展開する。</p> <p>○新規事業で「ジュニア諭吉検定」を中学生対象に実施し、「ふるさと学習」については、できるだけ多くの子ども達が参加できるように、募集対象等を見直す。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○4月に耐震化・改修工事を終え、8月3日に市民の学習・交流施設としてオープンし、記念式典には慶應義塾長の長谷山氏を迎え、「今、そして未来に求められる人材」をテーマに市内高校生とのパネルディスカッションを実施し、地域およびグローバルな観点からの意見が交わされた。</p> <p>○歴史博物館では、塾長と市長との対談では、新中津市学校の意義、慶應義塾と中津市のさらなる連携強化を約束した。</p> <p>○今年度事業として、アーカイブズ講座の開催、慶應義塾福澤研究センター教授の西澤氏を招聘して中津市学校をテーマとした全3回の市民講座を実施、慶應義塾福澤研修センター所蔵資料の博物館展示をおこなった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○慶應義塾より講師を招聘し、市民講座(全4回)、高校生向け講座(全2回)を開催する。その他、中津市民を講師とした市民講座(全2回)を開催予定。</p> <p>○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」のほか、各種資料の整理を行う。</p> <p>○市民の利用促進に向け、各種媒体を活用した広報活動、学校、各種団体への周知等を行う。</p>	4	B	5	A	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
10	2	G	中津市地域協育振興プラン推進事業	<p>中津市地域協育振興プラン推進事業の実施を通して、地域づくりに貢献できる人材の育成を図る。</p> <p>○中津中学校区をモデルとした「ほめあうまち なかつ」推進事業を通して、校区の小・中学校とコミュニティセンターを拠点とした校区ネットワーク会議が連携を図りながら、地域人材の育成に努める。</p>
11	2	H	生涯学習センター事業の充実	<p>通年・短期講座受講者数の増加、中津市生涯学習大学の充実と受講者の確保、利用サークルの増加を図る。</p> <p>○ニーズの把握による開設講座の見直しと学習内容の充実。</p> <p>○新規講師の開拓。</p> <p>○生涯学習センター「まなびん館」の周知。</p> <p>○学習しやすい施設、設備の充実と日常の環境整備。</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○中津中学校区をモデルとした「ほめあうまち なかつ」推進事業では、中津市教育スーパーアドバイザーの菊池省三氏による教職員対象のモデル授業や授業研究など非常に充実したものとなり、「ほめて、認めて、励ます」ことを意識した実践がそれぞれの学校の教育活動に活かすことができた。また、保護者対象の講演会については、多くの保護者が参加し、家庭での親子のコミュニケーションを見直すきっかけができたと考える。他校区の保護者からも講演を聞きたいと言う声も寄せられている。地域住民対象の講演会では、小楠校区地域福祉ネットワーク等と連携し、菊池省三氏講演会を開催、共助の意識が高いまちづくりについて学び合うことができた。しかし、モデル地域を指定する取り組みでは、指定年度は地域住民の事業に対する意識は高まるが、その後地域に継続的に定着させることが難しい。特に地域住民や保護者については意識が薄くなってきているのではないかと考えられる。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○これまでのモデル中学校区を指定して実施していた事業形態を見直し、令和2年度は、中津市PTA連合会と連携して、家庭の教育力の向上にスポットを当ててこの事業を展開し、まずは家庭における親子の良好なコミュニケーションによる望ましい家庭づくりに向けて保護者と協働して進めて行く。</p>	4	B	3	C	社会教育課
<p>○生涯学習センター利用者は、26,008人（前年度25,954人）と前年度より微増で、利用回数は、1,723回（前年度1,874回）と前年度より減少しているが、新型コロナウイルスの影響で3月を閉館としたことを加味すると、昨年度より大きく増加している。</p> <p>○生涯学習センター「まなびん館」で開催している生涯学習大学は、受講者実人数は623人（前年度577人）と前年度より増えているが、通年、短期講座への受講者数は全体的に横ばいであり、応募の際、定員に達していない講座もあった。</p> <p>○通年・短期講座、サークル生が主体的に運営に関わる「まなびんフェスタ」が新型コロナウイルスの影響で中止となり残念であった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○市民の生涯学習の中心的な社会教育施設としての機能を維持しつつ、市民ニーズを的確に把握し、それを生かした新しい学習の場をさらに増やしていく。また、多くの利用がある生涯学習大学の継続、活性化に努める。</p>	5	A	5	A	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
12	2	I	キャリア教育の充実	<p>職場訪問・職場体験の充実を図る。 （目標 職場体験受け入れ事業所数 300 カ所）</p> <p>○関係団体との積極的な連携。 ○短期大学等との積極的な連携。</p>
13	2	I	多様な体験の場の活用	<p>子どもたちが、正しい職業観を身につけ、自分の将来を考える時に選択の幅が広がるような多様な体験の場を提供する。</p> <p>○「職人フェスティバル」の実施。 ○少年少女発明クラブの充実。</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○職場訪問・職場体験は、全ての中学校（10校）で取り組むことができた。</p> <p>○職場体験受け入れ事業所数は、延べ296カ所であった。</p> <p>○「中学生のハローワーク」の冊子を作成し、全中学校へ配付するとともに、中津市HPにも掲載し、新規事業所の登録を推進した。その結果、新規に32事業所の登録を得て、職場体験学習を実施することができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○引き続き、「中学生のハローワーク」を活用し、職場訪問・職場体験の充実を図る。</p> <p>○今後も職業人講話を全中学校で実施するとともに、講師の拡充を図る。</p> <p>○小・中・高の継続した取り組みによる自己実現のために、キャリア・パスポートを活用した学習を推進する。</p>	4	B	4	B	学校教育課
<p>○「ステージ中津491」との共催で開催した職人フェスティバルでは、87ヶ所の職人ブースに延べ1,000人以上の子どもが参加し、商店街界限は多くの来場者で賑わった。 (前年度88ヶ所の職人ブース、1,200人の子ども参加)</p> <p>○中津少年少女発明クラブは、小学4年生から6年生まで計32人が登録し、1泊2日の合宿を含め、年間12回の活動を行い、大分県発明協会の発明工夫展に県内のクラブの中で一番多くの作品を出展することができた。このうち3人が県教育長賞などを受賞した。また、職人フェスティバルにおいても、発明クラブ指導者達の協力を得て、科学体験教室を実施し、約300人の子ども達が様々な科学体験をすることができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○職人フェスティバルは、応募受付業務に煩雑さや応募者に不公平感を残すものとなっているため、応募方法を見直す。</p> <p>○発明クラブは、発明工夫活動をさらに充実させ、子ども達の豊かな発想を引き出して行けるよう指導者と連携をして支援していく。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
14	2	J	図書館機能の充実	<p>市民ニーズに沿った図書館運営と利用率の向上、美術館等の近隣文化施設と一体化した連携を行い図書館利用の促進と利用者へのサービスの向上を図る。また、新規利用者の獲得のための手段や情報発信の方法を検討し、実施を図る。</p> <p>○図書館利用者の増加を目指すため、図書館だより等の広報活動を再考し、現在活動を行っていない場所で情報発信を行うことで、今まで図書館を利用していない市民に図書館の利便性を周知し利用者増を図る。</p> <p>○庁内各課と協力、連携し近隣文化施設との導線づくりを図る。</p> <p>○夏休み期間中、開館日も学生等に閲覧室、視聴覚室を学習スペースとして開放する。</p> <p>○各支所の分館ごとに地域特性を活かし、利用実態を分析し、利用者増に結びつける。</p> <p>○あかちゃんタイムや赤ちゃん読み聞かせ事業の充実、学校・図書館・ボランティア等と連携し、調べ学習や読み聞かせ資料の充実を図る。</p> <p>○移動図書館のサービスポイント見直しや、施設等の団体貸出の要望調査を行う。</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○常に利用者のニーズを把握し、図書館の情報を発信することで新規利用者の獲得を目指した結果、「あかちゃんタイム」等で利用促進を図ることができ、子育て世代の新規参加者が増加した。前年に比べ図書館の利用者数（H30 延べ 132,549 人→R1 延べ 119,547 人）・貸出冊数（H30 延べ 564,409 冊→R1 延べ 518,757 冊）は減少しているが、新型コロナウイルスの影響で3月を閉館としたことを加味すると、昨年度より貸出冊数は増加している。また、子育て世代の交流の場としての提供もできた。</p> <p>○図書館司書と読み聞かせグループなどが連携し、お話し会やDVD上映会を定期的を開催することで身近な施設の図書館づくりを行い、利用向上を図った。また、DVD上映会は人気のあるタイトルを上映するなどニーズを考慮したことにより、参加者が増加した。</p> <p>○令和元年11月より、妊娠・出産関係書、育児書の本棚の近くに妊娠中の利用者、赤ちゃん連れの利用者専用のマタニティコーナーを設置した。コーナーには利用者がゆっくりくつろげるソファ席を設置するなど利便性等の配慮を行った。</p> <p>○各分館については、地域特性を踏まえた運営を心がけ、読書週間などでのイベントやおはなし会の拡充、耶馬溪図書館の飲食可能スペースの提供、山国図書館独自のコミックス新刊本の増加など、それぞれの地域特性を活かした地域利用者への図書館利用増を図った。</p> <p>○高齢者施設に対し、団体貸出の要望調査を行い、施設利用に伴う課題等の把握を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○利用しやすい図書館サービスの向上を目指し、幅広い世代の利用拡大とニーズに応じた図書館運営及び対応を行う。</p> <p>○施設や高齢者等の実態に応じた貸出サービス（団体貸出など）の検討を行う。</p>	5	A	4	A	小幡記念図書館

No	分類			目 標
	大	中	小	
15	2	J	読書活動の推進	<p>第2次中津市子ども読書活動推進実施計画に基づく計画の実施、学校図書館やボランティアグループなどとの連携による読書活動の推進、児童館等の近隣文化施設と連携し読書の促進を図る。また、読み聞かせ事業や読書週間行事の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関係機関と連携し、第2次中津市子ども読書活動推進実施計画を遂行していく。 ○学校司書や読み聞かせボランティアと連携を蜜にし、研修や情報交換を行うことで子どもの読書推進を図る。 ○読書週間のイベントや分館ごとに地域特性を活かした行事を行い読書活動の推進を図る。 ○HPや図書館だより、市報などで、常に読書推進に関する情報発信を行う。 ○おはなし会やあかちゃんタイム、赤ちゃんと絵本事業などで乳幼児から絵本に触れてもらうことで読書推進に繋げる。
16	3	K	生涯スポーツの推進	<p>子どもから高齢者まで多くの市民がいつでもどこでもスポーツに触れ合う機会を創出するため、様々なスポーツ教室やスポーツイベント等を計画していく。また、併せて定住圏域住民のスポーツ振興を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。 ○市内の体育施設を利用して、様々なスポーツ大会や各カテゴリーの大会を誘致し、誰もが身近にスポーツと接する機会を増やす。 ○今年度もオリンピックデーランを開催し、定住圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントとして開催する。 ○指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用し、スポーツ教室やイベントの開催を連携して行っていく。

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○ボランティアと連携し、毎週月曜日、未就学児対象の「おはなし会」や毎月行う0歳児対象の「あかちゃんタイム」「赤ちゃんおはなし会」、7ヶ月児健診受診者対象とした「赤ちゃん絵本事業」などを実施し、乳幼児の読書活動の推進を図った。</p> <p>○小幡記念図書館設立110周年記念の一環として、読んだ本を記録できる読書手帳を使って110冊(2冊分)の本を貸出された方に図書館エコバックを進呈する取り組みを行い、読書手帳の普及、推進を図った。</p> <p>○こども読書週間(4月24日～5月12日)は、絵本の福袋、除籍本(児童書)無料配布、としょかん読書すごろくなどの取り組みを実施。秋の読書週間(10月27日～11月9日)は、分館連携の図書館シール・ラリーや本耶馬溪図書館ではおたのしみおはなし会・よるのおはなし会&きもだめしなどを行い、読書活動の推進を図った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○新中津市学校、村上記念童心館、歴史博物館(なかはく)など文化施設と連携し、文化エリアとして施設の特性を活かした中で読書推進を図る。</p> <p>○ボランティア、学校司書との連携を強化し、ニーズ、地域特性等を活かしたイベント実施で読書活動の推進を図る。</p>	5	A	4	A	小幡記念図書館
<p>○スポーツイベントについては、オリンピックデーラン中津大会等の開催や市民体育祭の後援をすることで多数の市民の参加が得られたことや、市内各地で開催するマラソン大会にも今年も多くの中津市の参加者があり生涯スポーツの推進が図られた。</p> <p>(八面山平和マラソン参加者数536人、オリンピックデーラン中津大会参加者数966人、諭吉の里「なかつ」ハーフマラソン・ウォーキング大会参加者数961人、市民講座参加者数700人)</p> <p>○指定管理者によるヨガ教室など、各種教室の開催を始め、元プロ野球選手やプロ縄跳びプレイヤーを招いてのスポーツイベントの開催、骨格の歪みなどを測定する機器を用いての運動指導など、スポーツに触れ合う機会の創出が図れた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○スポーツに触れ合う機会の創出については、一定の成果が見られるが、特定のスポーツに特化しないよう、引き続き多くの市民を対象とした気軽に参加しやすい教室やイベント、大会などの計画を考える必要がある。</p>	4	B	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
17	3	K	競技力向上及びジュニアの育成	<p>市体育協会や競技団体、学校、地域、企業などが連携し、人材の育成・強化に努める。</p> <p>○競技力の向上及び優秀な選手やジュニアの育成のために、優れた指導者の確保や育成が必要であり、全ての競技団体に「公認スポーツ指導者」や「スポーツ少年団認定員」等の資格取得を支援・推進していく。</p>
18	3	K	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	<p>市民のスポーツニーズに対応した施設の整備を行うことで、施設利用満足度を高め、多機能多目的な施設利用に柔軟に対応し、利便性の向上を図る。</p> <p>○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを計画して行く。</p> <p>○市民要望の高い種目（フットサル等）に対応する施設整備及び、多機能多目的な施設利用に対してのルール作り等を行っていく。</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○スポーツ少年団の認定員資格取得を説明会などで啓発し、取得者が増加した。(H30年度108名→R1年度115名)</p> <p>○中津市全体として49名の方がスポーツ推進委員として活動しており、各地区での生涯スポーツの推進や各種イベントでのボランティア活動の充実が図れた。</p> <p>○中津市、宇佐市、豊後高田市の持ち回りでスポーツ推進委員の研修会を実施しており、3市の交流などを通じ、ボランティアの育成に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○引続き、競技団体へは指導者資格の取得推進やスポーツ少年団への加入、そしてR2年度からのスポーツ少年団新指導者資格である「スタートコーチ」、「コーチングアシスタント」についても取得を推進していく。また、指導者や保護者、関係者向けの指導に関する講習会を定期的実施し、研修の場を設ける。</p>	4	B	4	B	体育・給食課
<p>○利用者のニーズを踏まえ、施設の利便性向上のための改修や修繕を実施した。(ダイハツ九州アリーナの空調設備の改修工事、米山テニスコート及び中津東体育館のトイレの洋式化、三光総合運動公園人工芝テニスコートの改修等。)</p> <p>○クライミングウォールを供用開始し、利用するための認定講習会開催や中津市以外の山岳団体及び登山団体によるクライミングウォール認定講習会を受講した方は市の講習会を受けずとも利用できるルール作りを行った。</p> <p>○利用要望が多かったフットサル競技について、旧中津市内でも実施できるよう「ふれあいスポーツセンター」の壁を整備し、ゴールの設置を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○市民のスポーツニーズ沿った市の振興に繋がるような施設にすべく整備を行なっていく。また、将来の財政負担や利用見込み等総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく。</p>	4	B	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
19	3	K	東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致活動	<p>覚書を締結した内容を基に柔道、パラバドミントン、アーチェリー、7人制ラグビーの事前キャンプ誘致を進める。また、市民の機運醸成のためのイベントを行う。</p> <p>○東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致として、覚書を締結した内容を基に誘致を進める。</p> <p>○周知活動、イベント等を積極的に行い、誘致活動に対して市全体が盛り上がるような機運の醸成を図る。</p>
20	3	L	文化施設の充実	<p>市民生活がより楽しめる文化的環境づくりを推進するため、文化芸術活動の場が提供できる文化施設の整備・充実に努める。</p> <p>○子どもから高齢者まで全ての市民が、鑑賞や自らの発表の場として、文化施設を活用できるよう施設の充実、利用機会の拡充に努める。</p> <p>○中津文化会館は建設後 40 年経過しており、市民が安全にかつ快適に施設を利用できるよう、老朽箇所等について必要な改修等を行う。また、木村記念美術館は、昨年度、老朽化により解体した別棟跡地を整地し、美術館、図書館及び近隣公共施設の共同駐車場として活用するための整地工事を行う。</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○東京 2020 オリンピック・パラリンピックについては、H30 年 7 月 2 日にマレーシアと事前キャンプに関する覚書締結を締結したが、H31 年 1 月にマレーシアのオリンピックキャンプの統括機関が変更となったため、新組織と引継ぎ協議を実施し、R2 (2020 年) 年 6 月にはパラバドミントン、パラ陸上、パラアーチェリーの代表が中津市で合宿を行うことを確認。(新型コロナウイルス感染症のため、合宿は延期。)</p> <p>○機運醸成イベントとして、毎年行っているオリンピックデーランや末綱聡子氏のバドミントン教室に加え、元イギリス代表のパラアスリートのノエルサッチャー氏による講演会及び、陸上教室を R1 年 8 月に行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会が新型コロナウイルスの関係で 1 年間の延期となったが、引き続きキャンプ誘致については、マレーシアとの連携を密にし、パラバドミントンは元より他の競技についても事前キャンプを行えるよう調整を行う。</p>	4	B	4	B	体育・給食課
<p>○中津文化会館については、老朽化していた高圧受電設備改修、空調設備改修、タイル張替等の整備を実施した。</p> <p>○木村記念美術館については、別棟跡地を整地し、駐車場整備工事を実施した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化芸術活動を推進するため、改修や修繕が必要と認められる箇所については、適切に整備を実施する。また、施設・機器等の老朽化状況を正確に把握し、予防保全の観点から、今後の改修及び機器更新の計画を立てて取り組む。 (来年度実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化会館大ホール舞台照明調光設備更新、空調機更新工事 	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
21	3	L	文化芸術活動の推進	<p>国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。</p> <p>各施設においては、多様な文化・芸術活動を展開しているが、より多くの市民が、芸術文化に親しむ場、また自らの活動の発表の場としても利用いただけるよう、情報の発信と活動の充実を図る。</p> <p>○文化会館、リル・ドリームについては、指定管理者の切替後1年目となり、「市民ニーズの把握とイベントの検証による事業の発展」「収益率と使用率の向上」「職員の育成、組織力強化」「安心・元気・未来プラン2017の推進」を条件に附してするため、指定管理者と協力して取り組む。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、歴史博物館との連携等により、さらなる事業の充実を図る。</p> <p>○市報やホームページ等、あらゆる媒体を使用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。</p>
22	3	M	資料館活動の充実	<p>中津市歴史博物館開館に向けて、展示・運営・開館行事の準備を行い、次年度以降の計画もたてる。また、大江・村上医家史料館、耶馬溪風物館のあり方についても方針を出す。</p> <p>○常設展・特別展の準備。</p> <p>○開館行事の準備。</p> <p>○学校教育との連携の内容決定。</p> <p>○観光との連携。</p> <p>○歴史博物館の開館後を見据えた各館のあり方の方針決定。</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○中津文化会館においては、年5回のスクリーン事業の実施やなかつ文化 EXPO の開催など、指定管理者と協力し、多様な文化芸術活動を展開した。</p> <p>○木村記念美術館では、常設展に加え、2回の企画展（うち1回は国民文化祭レガシー事業）を開催した。また、ギャラリートークやワークショップの実施や鑑賞講座等、年間を通して、各種の美術館活動に務めた。</p> <p>○国民文化祭を機に育まれた特徴ある活動をレガシーとして継承する事業として、木村記念美術館にて地元作家と美術団体を取り上げた企画展を開催した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、レガシー事業として具体的に取り組みの内容を充実させ、芸術文化による地域振興を図る。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、歴史博物館や美術団体との連携等により、事業のさらなる充実強化を図る。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○常設展及び特別展ともに、準備は時間に追われながらも完了し無事開館を迎えることができた。</p> <p>○開館行事は式だけでなく、神楽やアートイベントを行い市民参加の形で盛況に終えることができた。</p> <p>○学校教育との連携については、市内全中学生を博物館に招待し、小学校6年生のまちなみ探検、小学校3年生の社会見学の受入も行なった。社会見学は体験メニューを複数用意し、学校に選択してもらった。</p> <p>○観光との連携については、観光部局と協力し積極的な情報発信ができたほか、観光協会が博物館にレンタサイクルを設置した。</p> <p>○風物館は日本遺産ガイダンスセンター化の整備に着手した。両医家史料館は国文学研究資料館との連携により医家史料を所有する館としての情報発信を強化した。HP、FB、Twitter を立ち上げ積極的に活用している。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○魅力的な展示や、文化財に親しむ機会をつくることで、各館の魅力アップをはかり、県外への知名度を高める必要がある。また、展示や活用だけにとらわれず、資料の収集や保存という博物館としての基本的な機能の充実を図り周知していく必要がある。</p>	4	B	5	A	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
23	3	M	文化財保護体制の確立	<p>有形・無形文化財の調査・実態把握につとめ、重要なものについては指定及び指定の格上げを行なう。また、保護が難しくなってきた文化財については、博物館収蔵庫の利用や、市民で維持管理する体制づくりをすすめる。</p> <p>○文化財の調査・研究を行い、委員会の意見をふまえ保護措置について検討する。</p> <p>○新指定を目指すもの、指定の格上げを行うものについて検討し、指定の準備、申請を行う。</p> <p>○博物館に収蔵可能なものは寄託・寄贈の措置を促す。</p> <p>○地域で守るべきものについては保護組織の立ち上げや運営の支援を行う。</p> <p>○名勝耶馬溪を特別名勝にするための環境整備を行なう。</p>
24	3	M	文化財の保存・活用	<p>文化財の収蔵環境を改善するための検討・措置を行い、懸案事項であった史跡や建造物の保存整備を進めるとともに、価値の周知につとめる。</p> <p>中津市歴史博物館を活用し文化財に親しむ機会をつくり、新中津市学校では、郷土の偉人の業績を市民に伝え人材育成につなげる。</p> <p>また、有形無形文化財をいかす取り組みを市民とともに進める。</p> <p>○名勝、埋蔵文化財包蔵地を開発する際の届出等の周知、監視の強化を行う。</p> <p>○名勝耶馬溪整備計画の策定を進める。</p> <p>○日本遺産事業として地域住民とともに取り組む部会を設置し、文化財の活用を行う。</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○史跡や有形無形文化財の調査および保護措置についての検討を行ない、次年度事業への準備を行うことができた。</p> <p>○市指定史跡を県指定へ格上げ1件、県指定へ追加1件、市指定候補の調査1件を行なった。中近世城館の調査を通し、指定にむけて基礎資料の蓄積と検討を行なった。</p> <p>○個人で管理できない資料については、博物館への寄託・寄贈を随時行なった。貴重な資料を県外からも多数受け入れることができた。</p> <p>○国登録文化財平田邸を保護し活用する組織「平田邸活用推進協議会」を発足させ、年間を通して運営をサポートした。その結果、国交省や中津玖珠日本遺産推進協議会交付金を活用し、協議会が自走するための基礎整備を行うことができた。</p> <p>○名勝耶馬溪の調査をすすめる、基礎資料の蓄積を行なった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化財保護法の改正により、県が「文化財保存活用大綱」を策定し、各自治体は県の大綱をもとに「文化財保存活用地域計画」の策定を行なうよう求められている。大分県の大綱策定は令和2年度末完成の見込みであり、中津市もすみやかに地域計画策定へ移行できるよう、令和2年度は策定のための委員会設置と問題点の洗い出しにつとめる必要がある。この作業を並行しながら、個別の対策に取り組んでいきたい。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○埋蔵文化財、民具の収蔵環境の改善はなかなか解決できない状況である。</p> <p>○長者屋敷官衙遺跡の整備を計画通り実施し、相原廃寺・沖代条里土水路は今後の整備方針を決定した。また、次年度より薦神社神門修理に着手できる見通しがたった。</p> <p>○博物館での体験メニューは、常時開催のものだけでなく、季節に応じたメニューも開発した。</p> <p>○福澤研究センターよりの資料の移管、関係する歴史資料の調査を行い、特別展に活かすことができた。</p> <p>○平田邸を活用したイベント開催を行なったほか、国文学研究資料館と古文書データベース構築にむけての覚書を締結し、ロバート・キャンベル館長を迎えて事業の周知につとめた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○長年の懸案事項である埋蔵文化財と民具の収蔵環境改善にむけての検討を継続するとともに、庁内での理解促進につとめる必要がある。</p> <p>○史跡や有形文化財の整備については、整備状況の情報公開も必要である。</p> <p>○新中津市学校の活用や、大学や国文学研究資料館との連携事業を通し、調査・収集の成果を展示等で市民に還元する取り組みを今後も積極的に推進する。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
25	4	N	教育委員会の機能強化	<p>総合教育会議等を通じて市長と教育委員会が緊密な連携をとり、両者が教育行政の方向性を共有し、より一層地域住民の意向を反映した教育行政の推進を図っており、引き続き市長部局との連携強化を行う。また、教育現場の実態把握と関係機関との意見交換、教育委員の視察、研修機会の拡充を図る。</p> <p>○総合教育会議などの市長と教育委員会が連携を図れる会議等を開催する。</p> <p>○学校現場を訪問するなどして、県等関係機関と教育行政についての意見交換を行う。</p> <p>○先進地視察など教育委員の研修機会の拡充に努め教育行政について研鑽を重ねる。</p>

達成状況	H30		R1		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○総合教育会議を年1回開催（令和2年2月6日開催）し、協議・調整を行った。</p> <p>○「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会として、学校訪問後、県教委を交えて教育委員、教職員との意見交換会等を行った。また、年2回の学校訪問や運動会等学校行事の際、教育委員も出席し各学校の状況把握及び意見交換等を行った。</p> <p>○大分県市町村教育委員連合会総会（宇佐市：5/28）に参加し、「新学習指導要領と道徳教育」の研修を受け、研鑽を重ねた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○教育を取り巻く環境も絶えず変化している中、多様化する課題を的確に把握し、迅速に対応するため、学校訪問や教職員との懇談会等に各委員が積極的に参加・出席し、現場の声に耳を傾け、現状や課題の認識を行う。その課題事項をもって、市長との総合教育会議を通じて、市長部局との連携強化を行い、課題解決に向けた教育行政を推進していく。また、総合教育会議の開催時期や形骸化とならないよう、引き続き市長部局と密な連携・協議が必要である。</p>	4	B	4	B	教育総務課

まず、報告書から読み取れる限りにおいて、各施策の達成状況についての所見を述べます。

1. 学びたい教育のまちづくり（学校教育）

(A) 学校教育の充実（義務教育の充実）

・ 確かな学力の育成

令和元年度の全国学力・学習状況調査において、正答率の合計が全国・県を上回っている学校の数は、わずかに目標に届かなかったものの、市全体の合計得点では、小学校は全国・県を上回っており、取り組みの成果が表れている様子が窺えます。効果が想定されるさまざまな具体的取り組みが展開されており、今後のさらなる向上が期待されます。

・ 組織的ないじめ・不登校対策の推進

いじめ・不登校対策においては、全体の数字の増減にのみ目を奪われることなく、一人ひとりの児童生徒にしっかりと目を向けた組織的な取り組みが求められます。その点で、不登校に関して言えば、地域児童生徒支援コーディネーターや、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの関係者が、未然防止・早期支援に向けて情報共有・共通理解の場を設定し対応策を講じていることは、評価できます。今後は、不登校児童生徒の「社会的自立」を目指した取り組みも期待されます。

(B) 学校教育の充実（小・中・高・短期大学との連携促進）

・ グローバル化に対応できる力の育成

求められる英語力を有する中学校3年生の割合は、目標に届かなかったものの、年々増加の傾向にあり、今後のさらなる向上が期待されます。また、APU 交流をはじめとして、児童生徒が英語に触れ、英語力を向上させるさまざまな取り組みが展開されていることは、評価できます。

(C) 学校教育の充実（幼児教育の充実）

・ 幼稚園教育内容の充実

平成29年3月告示の幼稚園教育要領において、幼稚園では、小学校以降の教育を見通しながら、遊びを通じた総合的な指導をすることが明確に示される中、保幼小連携協議会を開催したり、市内全保育教育施設の保育士等と小学校教員で「遊び」についての合同研修を行ったりしていることは、幼児教育の充実と、異なる学校種間の円滑な接続という点で、評価できます。

(D) 安心安全な学校施設の計画的整備促進

・安心安全な学校施設の計画的整備

学校施設の長寿命化改修、大規模改修、トイレ洋式化改修等について、国庫の動向を注視した計画的な整備が実行されています。

(E) 学校給食の充実

・地産地消の推進

栄養教諭が中心となり、地元産食材を使った新献立を開発したり、各調理場でジビエに取り組んだり、地産地消の推進が図られている様子が窺えます。地産地消の学校給食は、児童生徒が地域に関心を持ったり、身近にいる生産者や食物・食材に感謝の念を持ったりする機会にもなるので、今後は、そのような観点からの取り組みの充実が期待されます。

2. 学びたい教育のまちづくり（生涯学習・産業教育の推進）

(F) 生涯学習の推進

・生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進

公民館、コミュニティーセンターの利用者数は、新型コロナウイルス対策の影響を考慮しても減少したものの、生涯学習センター「まなびん館」の生涯学習大学の受講者数は増加しており、市民の生涯学習のニーズに応えている様子が窺えます。各地域での高齢化が進む中、公民館の活動活発化の取り組みが期待されます。

・学習機会の拡充と学習効果の活用

多様な取り組みが展開されています。特に、子どもたちを対象とした、諭吉かるた大会、子ども中津検定、ワンパク！たんけん中津、青少年地域活動（三保小学校人形劇クラブ）、ジュニア歴史ガイドなどは、地元の歴史や文化に根ざした社会教育の活動として、評価できます。

・新中津市学校の活用

慶應義塾長を迎えて、市内高校生とのパネルディスカッションを実施したり、アーカイブズ講座や中津市学校をテーマとした市民講座を開催したりするなど、新中津市学校が地域を見つめ直したり、地域の将来を見通したりする場として活用されている様子が窺えます。さらなる活用と発展が期待されます。

(G) 教育の協働

・中津市地域協育振興プラン推進事業

「ほめあうまち なかつ」推進事業では大きな成果をあげる一方で、モデル地域の指定を外れると、地域住民や保護者においては事業への意識が希薄化するという課題が指摘されているので、課題解決のための取り組みが求められます。

(H) 生涯学習センター「まなびん館」

・生涯学習センター事業の充実

生涯学習センターの利用者が、新型コロナウイルス対策の影響を考慮すると、昨年度より大きく増加していること、また、生涯学習センター「まなびん館」の生涯学習大学の受講者数が増加していることは、市民の間に生涯学習のニーズがあり、行政がそれに適切に応えていることの表れとして、評価できます。

(I) 産業教育の推進

・キャリア教育の充実

「中学生のハローワーク」の冊子を全中学校に配布したり、中津市 HP にも掲載して新規事業所の登録を推進したりするなどして、職場体験受け入れ事業所数がほぼ目標に達したのは、それらの取り組みの成果と見ることができます。

・多様な体験の場の活用

87カ所もの職人ブースに延べ1,000人以上の子どもたちが参加した職人フェスティバルは、昨年度よりも参加人数が減少したとはいえ、子どもたちが楽しみながら地域のさまざまな人や物に触れるよい機会を提供しています。中津少年少女発明クラブも、活発に活動している様子が窺えます。

(J) 図書館の充実

・図書館機能の充実

「赤ちゃんタイム」の実施により子育て世代の新規参加者が増加したり、新型コロナウイルス対策の影響を考慮すると貸出冊数が増加していたりするなど、図書館の機能が充実し、十分に活用されている様子が窺えます。また、妊娠中や赤ちゃん連れの利用者専用のマタニティーコーナーを新たに設置したり、ゆっくりくつろげるようソファ一席を設置したりするなど、細やかな気配りと工夫があり、利用者本位の図書館活動として高く評価できます。

・読書活動の推進

未就学児対象のおはなし会や、「赤ちゃん絵本事業」による乳幼児の読書活動の推進、貸出冊数に応じて図書館エコバックを進呈する取り組みによる読書手帳の普及など、さまざまなアイデアに基づく具体的な手立てが講じられています。こども読書週間には、絵本の福袋やとしょかん読書すごろくなど、子どもの興味を引く取り組みが実施されており、特に乳幼児や子どもの読書活動の推進として高く評価できます。

3. 学びたい教育のまちづくり（文化・スポーツの推進）

（K）スポーツの振興

・生涯スポーツの推進

多くの参加があるマラソンやウォーキングの大会、市民講座を開催したり、指定管理者による各種教室や、元プロ野球選手やプロ縄跳びプレイヤーを招いてのスポーツイベントを開催したりするなど、生涯スポーツの推進に活発に取り組んでいる様子が窺えます。

・競技力向上及びジュニアの育成

「スポーツ少年団認定員」資格の取得推進など、主にジュニアのスポーツに携わる指導者の確保と育成に取り組んでいる様子が窺えます。今後は、新しい指導者資格制度への的確な対応、スポーツ指導の倫理や性の多様性の理解など今日的な課題を含む研修の充実が期待されます。

・市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用

スポーツは、特別の施設を必要としないものもありますが、体育館のような屋内施設やテニスコートのような屋外施設を必要とするものも多くあり、施設の有無は重要です。市民の要望に応えフットサルコートが新設されたり、クライミングウォールの供用が開始されたり、整備が着実に進んでいる様子が窺えます。

・東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致活動

マレーシアと事前キャンプに関する覚書を締結したり、バドミントン教室や講演会など機運醸成のためのイベントが開催されたりしており、オリンピック・パラリンピックは1年延期となりましたが、積極的な活動が行われてきた様子が窺われます。

（L）文化・芸術活動の推進

・文化施設の充実

必要な改修や駐車場の整備が行われています。今後も、生涯学習の場としての適切な改修等が期待されます。

・文化芸術活動の推進

中津文化会館におけるスクリーン事業や、なかつ文化 EXPO の開催など、市民のニーズに応え、市民が参加しやすい活動が行われています。木村記念美術館では、鑑賞というスタイルだけではなく、ギャラリートークやワークショップといった、美術を楽しむ多様なスタイルが取り入れられています。また、地元作家と美術団体を取り上げた企画展の開催は、地域の文化芸術活動を推進する取り組みとして、評価できます。

(M) 歴史と文化の伝承

・資料館活動の充実

中津市歴史博物館の開館が最大の成果であったと言えます。開館行事が市民参加の形で行われたことや、市内のすべての中学生を博物館に招待したり、小学生の社会見学やまちなみ探検を受け入れたりして学校教育と連携した活動を展開したことは、市民や中津市の将来を担う児童生徒とともにあり、ともに発展しようとする博物館の姿勢の表れとして、高く評価できます。

・文化財保護体制の確立

市指定史跡の県指定への格上げや追加が行われたり、平田邸活用推進協議会を発足させて運営をサポートしたりするなど、文化財保護に地道に取り組まれている様子が窺われます。文化財の基礎的な調査や資料の収集は、地味で忍耐強さが求められる作業ですが、地域の文化財保護の観点からは大変重要です。今後も、着実に文化財保護の取り組みが進むことが期待されます。

・文化財の保存・活用

博物館での新たな体験メニューの開発や、平田邸を活用したイベント開催などは、文化財の活用という観点からのみではなく、それらの文化財を有する地域に市民の目を向けさせ、文化財を保存する重要性への理解を向上させるという観点からも、重要です。今後は、埋蔵文化財等の収蔵環境の改善が望まれます。

4. 学びたい教育のまちづくり（教育委員会活動の充実）

(N) 教育委員会活動の充実

・教育委員会機能の強化

教育委員会が自らの活動を点検・評価の対象としていること自体が、まず評価できます。教育委員と教職員との意見交換会や、教育委員の学校訪問や学校行事への参加などを通して、教育委員会活動の充実に努めている様子が窺えます。総合教育会議等が十分に機能するよう、各部局との緊密な連携が期待されます。

最後に、総合的な所見を述べます。まず、学校教育については、本市独自の授業改善の取り組み、教育委員会による通信の発行、ICTを活用した市内共有フォルダの開設など、確かな学力の育成に向けた具体的な手立てが講じられています。いじめ・不登校対策においては、それぞれ役割を持った担当者や専門家が組織的に対応する体制が整えられています。グローバル化への対応では、求められる英語力を有する中学3年生の割合が増加傾向にあり、成果を上げつつあります。幼稚園教育については、幼稚園・保育所と小学校との連携や交流、研修が実施されており、異なる学校種間の円滑な接続の取り組みが着実に進められています。

生涯学習の機会も充実している様子が窺えます。生涯学習センターの活動をはじめ、さまざまな場と機会に子どもたちが楽しみながら参加できるプログラムが実施されています。これらは子どもたちが地域の歴史や文化、生活に触れる貴重な機会になっていると考えられます。また特に、報告書を読む限りでは、図書館の活動が充実しています。例えば、マタニティーコーナーの設置は、子育て家庭への支援という側面がありますし、子どもの興味を引く取り組みは、乳幼児や子どもの読書活動の推進として高く評価できます。今後は、中津市歴史博物館の活動が注目されます。

このように、学校教育に止まらず、生涯学習の面においても多彩な活動が展開されていることは、本市の基本的な考え方「いつでも どこでも だれでも 学べる環境づくり」が具体的な形として実現されたものと捉えることができます。さらなる発展を期待します。

IV おわりに


『中津市教育振興基本計画』においては、計画期間を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」を基本として


- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境づくり

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

令和元年度においては、４項目を施策別基本目標、２５項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDCAサイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

